

## 平成18年度事業計画

社団法人日本産業車両協会

### はじめに

平成18年度のわが国経済は、前年度に引き続き堅調に推移し、デフレ脱却も視野に入ってきたと期待されている。

産業車両業界においても、内外の需要は依然堅調であると期待されるものの、依然として部素材の需給逼迫や価格高騰が懸念されており、また10月以降拡大・強化される特殊自動車への排ガス規制等、環境問題を中心とする社会的課題への対応強化も求められるところである。

協会では、こうした社会・経済環境をしっかりと認識して、業界の基盤を強化し将来に亘る持続的な発展につながる様々な事業について積極的に取り組んでいく必要がある。

以下において、各課題に対応して実施すべき事業の内容と計画について報告する。

### 基本的事項

- (1) 産業車両業界の基盤強化を図るため、業界の将来の発展に資する施策を策定・実行するとともに、併せて業界の社会的地位の向上を図るための事業を推進する。
- (2) フォークリフト、無人搬送車システム、特殊自動車、及びその他の産業車両や関係部品等の機種ごとに有する課題について、それぞれ関係する情報、社会経済的な動向の把握を行い、関係委員会等を通じて適切な対応策を検討、推進する。
- (3) 経済産業省をはじめ、国土交通省、厚生労働省、環境省等の関係官庁、諸機関及び内外の関係団体と連携して、産業車両に関する諸事業の推進に協力するとともに、要望事項等の具申を行い実現に努める。

### フォークリフト業界の基盤強化のための事業

#### 1. 製造業としての基盤強化及び社会的地位の向上のための事業

フォークリフト製造業として、技術・開発・製造から流通・アフターマーケットに亘る総合的な業界基盤の強化及び社会的地位の向上に資するため、以下の事業を推進する。

- (1) 業界を取り巻く社会・経済情勢の適確な把握と業界に対する支援措置の要望推進  
所管官庁である経済産業省をはじめとする関係官庁及び内外の関係団体等からの関連情報の迅速な入手に努め会員に提供する。併せて業界の意見要望の集約に努め、関係方面に対して業界の基盤強化を図るための支援措置や規制緩和に関する要望を行って実現に努める。

平成18年度に実施される、倉庫施設におけるフォークリフト等の省エネ機器導入に対する補助金制度に関し、国土交通省、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)に協力して、円滑に制度が運用されるよう努める。

(2) 社会的地位の向上の推進

フォークリフトの法的、制度的な位置付けを明確にし、遵法的な使用、点検等の徹底、顧客の利便性向上等を図るため、現状における問題点の整理や、改善の必要性について調査を行い、具体的な改善要望に努める。

(3) 統計業務の更なる充実化

国内外の生産、受注、販売、輸出等に関する統計の整備を継続推進するとともに、需要予測の策定を行って、市場動向の適確な把握に努め、会員や関係者に提供する。顧客アンケート調査、下取り車の実態調査等を通じて、市場構造及び顧客動向の把握に努め、会員に提供する。

(4) 日本フォークリフト販売協会との連携・協力

「製造」と「販売」の両輪として、定期的な情報交換を行って、公正な取引の推進や社会的課題への対応等の共通課題について、協力して業界の基盤強化に努める。

(5) 業界の基盤強化のための関係業界との連携・協力

内外の経済環境、技術、環境、安全等に関する対応向上を図るため、引き続き関係業界との連携・協力に努める。

## 2. 国際交流・グローバル化推進のための事業

会員各社のグローバルな事業展開が拡大する中で、業界にとって海外市場の重要性はますます高まっている。こうした情勢を踏まえ、本会では引き続き以下の事業を推進して、海外業界との連携・協力の強化、情報の迅速な収集と会員への提供を通じて、業界の基盤強化、プレゼンスの向上推進を図ることとする。

(1) 国際交流の推進

F E M (欧州物流機械連盟)、I T A (米国産業車両協会) 及びオブザーバーとして初参加が見込まれるC I T A (中国産業車両協会) と協力して、平成18年9月フィンランドで第9回アライアンス業界首脳会議を開催し、今後の業界の展望や共通課題への対応について意見・情報の交換を行って、協力体制を強化する。

平成18年5月の本会総会に海外業界の代表を招くとともに、9月のF E M及びI T Aの総会に本会代表が出席し、相互理解を深める。

海外業界と連携、協力して世界統計(W I T S)の適確な運用に努め、世界の市場動向の迅速な把握に努める

中国、韓国等、欧米以外の海外業界との交流拡大に努める。

(2) グローバル化への対応促進

海外の企業、市場の動向に関する情報収集に努めるとともに、日本からの輸出、海外生産の把握及び今後の見通し策定を実施する。

日本機械輸出組合と連携を強化し、業界のグローバル化に資するため、関係情報の収集や、海外の関税、貿易制度に関する改善要望を引き続き実施する。

### 3. 環境対応推進のための事業

環境問題への対応は、社会的要請にも応え、業界の持続的な発展を遂げるための必須要件であるとの認識の下、環境負荷低減を図るため、以下の事業を推進して、業界の基盤強化に努める。

#### (1) 環境自主行動計画の着実な推進

地球温暖化対策、循環型社会の形成を中心とする様々な環境課題について、製造過程からのCO<sub>2</sub>排出量及び産業廃棄物の最終処分量の削減計画の的確なフォローアップと実現に向けた取り組み強化を図ると共に、業界の対応状況について広く理解を得るよう広報に努める。

#### (2) 環境問題に対する具体的課題への対応推進

関係団体と連携・協力して、「使用済み廃バッテリー」、「使用済みタイヤ」等の産業廃棄物の適切な処理・再生を図るための具体的な方策の策定に努める。

フォークリフト等特殊自動車の排出ガス規制について、諸官庁や関係団体と連携・協調しながらディーゼル及びガソリン（含むLPガス）特殊自動車の次期規制などの円滑な対応を図る。

公道を走行しない構内専用の特定特殊自動車、いわゆる大型特殊自動車及び小型特殊自動車等のオフロード車の排出ガス規制について、ディーゼル及びガソリン（含むLPガス）の初規制への対応を図るため、経済産業省、環境省及び国土交通省と連携・協調しながら適切な対応を推進する。

その他環境に関する課題について、関係諸官庁の指導、あるいは関係団体との協力も得ながら、適切な対応を推進する。

#### (3) 環境問題に関するグローバルな対応

環境問題に関し、グローバルな視点からの対応を図るべく、海外の関係情報入手に努めるとともに、欧米業界との情報交換に努める。

### 4. 安全向上推進のための事業

内外の安全規格、規制の国際的な標準化を積極的に推進していくとともに、業界として安全性・環境保全の向上及び安全作業の推進に資する施策に取り組んで、顧客からの信頼も高めるべく、以下の事業について検討、推進を図って、業界の基盤強化に努める。

#### (1) 国際標準化の推進

国際標準化への協力体制を継続し、ISOにおける安全規格等の審議に積極的に参画する。

欧州のCEN/TC150（欧州標準化委員会/産業車両）、アメリカのITA/GEC（米国産業車両協会/技術委員会）との技術に関する情報交流を積極的に推進する。

国際標準化事業を支援して、技術的課題を解決するため、日欧米三極業界による協力関係を強化推進する。

## (2) 国内標準化の推進

国際標準化の観点から、フォークリフト等に関する J I S (日本工業規格) の国内審議団体として、中・長期事業計画の下、その着実な推進を図る。

現行の日本産業車両協会規格 ( J I V A S F 部門 ) 見直しを継続推進するとともに、フォークリフトの安全設計、警告表示、振動・騒音、基準認証等に対する要望調査を継続推進する。

フォークリフトを含む機械安全の確保を図るため、社団法人日本機械工業連合会による機械安全調査研究事業に協力して推進する。

## (3) 安全向上に資する施策推進

顧客がより安心して製品を使用できるよう、厚生労働省の職業能力開発事業の下で、日本フォークリフト販売協会と協力して、産業車両整備技能士の国家技能検定制度を活用して、優秀な整備技能士の育成を継続推進する。

労働安全衛生法に基づくフォークリフトの特定自主検査制度の実施促進を図るため、日本フォークリフト販売協会及び社団法人建設荷役車両安全技術協会と協力して、顧客に対する同制度の理解増進と周知徹底に資する事業を継続推進する。

安全作業の確立と労働災害防止に資するため、陸上貨物運送事業労働災害防止協会による第 21 回全国フォークリフト運転競技大会実施について、その運営の向上に資する提案等も行いながら協力して推進する。

その他、関係団体の要望等も受けながら、安全の向上に資する対応を推進する。

## 無人搬送車システムの健全な発展のための事業

無人搬送車、無人けん引車、無人フォークリフト及び有軌道台車を対象とする無人搬送車システムの更なる発展を図るために、以下の事業を推進する。

### (1) 無人搬送車システムの総合的な発展と推進に向けて

無人搬送車はマテリアルハンドリングの中核として自動倉庫、仕分けシステム等とともに今日まで発展を続けた。今後更に IT 化を含め総合的な物流システムとしてその機能の幅を広げ、市場の拡大を図る。

F A、物流システム機器としての総合的な観点から、無人搬送車システムの更なる展開を期するため、社団法人日本ロジスティクスシステム協会をはじめ関連団体と協調連携を図って、情報交流、技術開発、市場拡大等将来の展望を踏まえた検討推進を図る。

無人搬送車システムに関する統計充実化による市場動向の把握を図り会員に提供する。

国際標準化の観点から、無人搬送車システムに関する J I S (日本工業規格) の国内審議団体として、国際規格案の検討等、その着実な推進を図る。

F A、物流関連事業の一環として、関係諸官庁、関係団体等と連携して、標準化、安全向上に資する事業を検討推進する。

(2) 無人搬送車システムに関する情報の発信

需要業界に対する広報、啓蒙等を通じて健全な普及促進を図る。

**特殊自動車届出業務の円滑な推進のための事業**

道路運送車両法で規定されている特殊自動車については、引き続き国土交通省への届出業務に関する同省との窓口団体としての役割を果たすため、以下の事業を推進する。

(1) 国土交通省の施策への協力と業界としての意見具申

関連法令及び通達等の制定、運用等に関して、特殊自動車を持つ固有事情の反映と建設的な意見具申を行い、適正かつ円滑な届出・申請業務が行えるように努める。

(2) 特殊自動車の届出・申請業務の円滑化、適正化の推進

特殊自動車に関する安全、環境問題の国際化について、関係団体とも連携・協力して、円滑な実施のための検討を推進する。又、適切に届出・申請手続きが進められるよう認証関連規定の周知徹底、関連情報の共有化を推し進める。

(3) 特殊自動車に関する協会規格(JIVASS部門)の制定及び改訂検討

特殊自動車を取り巻く環境の変化や保安基準、届出・申請関連規定の一部改正に対応して、協会規格の制定及び内容改訂を図る。

**広報・宣伝、会員の連絡親睦のための事業**

業界に関する情報の受発信能力の向上を図るとともに、会員間あるいは業界間での情報交換の強化と円滑化を図って、業界の基盤強化に資するため、以下の事業を推進する。

(1) 業界としての情報発信力強化

協会ホームページ及び会報「産業車両」誌の内容を充実化させ、業界事情の紹介に努める。

平成18年9月12日～15日に東京ビッグサイトで開催される「国際物流総合展2006」に関し、主催者団体の一員として、関係団体と協力して準備事業を推進する。

(2) 会員の連絡親睦

平成18年5月の通常総会後の会員懇親パーティー、及び平成19年1月に新年賀詞交歓会を開催し、親睦を深め情報交換を行う機会の提供に努める。

以 上